

令和3年4月7日

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校 令和元年度学校評価  
につきまして下記の通り評価結果をご報告いたします。

## 記

1. 委員  
総合医療センター事務部長 津久井一浩（委員長）  
埼玉医科大学看護部 副総看護部長 井岡京子  
社会福祉法人 埼玉医大福社会 理事長補佐 手嶋顕久  
同窓会 会長 中村恵津子
2. 開催状況
  - 1) 会議名 : 第2回 学校関係者評価委員会
  - 2) 開催日時 : 令和3年2月26日（金）10:00～11:45（1時間45分）
  - 3) 開催場所 : 本校 1階会議室
  - 4) 出席者 : ①委員（4名）  
津久井一浩、井岡京子、手嶋顕久、中村恵津子  
②学校（3名）  
中村美智子、小崎妙子、田中律子  
書記（1名）田中陽子  
参加者合計 8名
3. 議題等
  - 1) 校長挨拶（校長欠席のため代理：副校長挨拶）
  - 2) 出席者紹介（事務室長）
  - 3) 令和元年度自己点検・自己評価結果説明（副校長、教務主任、事務室長）  
令和元年度事業計画・事業報告、学校自己点検・自己評価結果の説明
  - 4) 意見交換  
説明についての質疑応答、改善点等について討議の議事録（詳細は別紙1・2）
  - 5) 今後の予定  
5月の理事会で委員会報告  
次回の会議日程 令和3年9月頃に令和2年度についての学校関係者評価委員会開催  
予定

## <別紙1> 令和元年度学校関係者評価委員会報告書

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

(表示の①は自己点検 ②は学校関係者評価)

### 【大項目毎の自己評価の要約と詳細】

#### (1) 教育理念・目標 3.0

- ① 教育理念・目的は明確であり、卒業時の到達目標も目的に沿った内容である。理念と科目の関連性や各科目間での不足や重複内容の検討が不十分であるため、新カリキュラム改正に向けてシラバスのフォーマットを見直した。卒業時の学生像に到達できているかの評価ができていないので評価方法の検討が課題である。
- ② 教育理念・目的は理解しやすい。もう少し評価が良くても良いのではないかと考える。また、期待する卒業生像の個々の評価は難しいのではないかと考える。

#### (2) 学校運営 3.4

- ① アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては、明文化するための教員による全体会議を行った。学校運営に関しては、教員会議で検討し校長報告後決定しているので適正である。また、運営に関する業務の一部のみに委員会として規定を設けているので検討が必要である。学生情報の共有は面接用紙のほか、学生カードでの情報を開始した。保健師助産師看護師法の養成所指定規則の教員資格については、教務主任以下、教員養成講習会での資格取得者が12名となった。
- ② 業務運営は根拠と明確な方針に基づき進めるのがことが重要である。

#### (3) 教育活動 3.0

- ① 育てたい学生像を達成するための科目設置の検証をしていくために、シラバスの見直しを行い、各科目で学生のどの能力が培われるのかを明確に記載する必要がある。また、今年度は授業の評価を外部講師まで拡大したが、結果の公表には至らなかった。卒業時に身についた能力を測り、卒後1年目の能力の獲得状況を比較することで学生の成長が明らかになる。
- ② 授業評価は講師に積極的に公開すべきである。また、各科目の可否は第三者にもわかる基準とすること。特にスキルの評価は、判定基準の設定が必要である。

#### (4) 学修成果 3.0

- ① 国家試験合格者全員が就職できている。希望者すれば附属の施設に全員就職できるのが強みでもある。国家試験の合格率も今年度は98.6%であり、直近の結果も全国平均より高水準で推移している。しかし、卒業生の動向については、卒業生がどのようなキャリアを積んでいるかのとりまとめもできていない。今後は同窓会とも連携して把握に努めたい。
- ② 国家試験合格率と就職率は高い水準を維持しているので、もう少し高い評価でも良いのではないかと考える。卒業生をどこまでフォローすべきか可能な範囲でよいのではないかと考える。

## (5) 学生支援 3.2

- ① 附属病院の就職支援を実施。今年度の退学者率 6.0% で前年度より 1.0 ポイント上昇している。健康上の問題、学力不足による進路変更が挙げられるが、早期に対応できる体制づくり、具体的な生活・学習支援が必要である。就学資金については、学生支援機構、法人からの奨学金を希望者全員に貸与している。学校保健法に基づく健康診査も 1 回／年実施している。インフルエンザ流行時も実習病院と連携しながら対策を講じて、拡大防止に努めている。また、月に 2 回程度学生相談室を設けており、学生にとっては担当者が交代したことで利用者は増えている。学生の自治会活動には教員 2 名を配置し支援している。
- ② 生活困窮世帯の増加に対しての生活支援貸付金制度やメンタル面ではカウンセリングの拡大が必要である。

## (6) 教育環境 3.3

- ① 施設については、築 17 年を経過しているが、校舎・設備には問題なく管理されている。在宅室からの異臭については改善できていない。教育用具については、最新のシミュレーター等も購入でき、シミュレーション教育の導入に繋がっている。教育用具は、数も種類も豊富にあり、演習などは円滑に行なえている。防災・安全管理体制については、3 日分の備蓄もあり運用出来ているが、災害を予想した具体的な対策の検討が必要である。
- ② 大学病院や福祉施設に隣接しているため、医療や福祉これに付随している業務がどのように行われているか知ることができるのは大きなメリットであり、もう少し高い評価でよい。

## (7) 学生の受入募集 3.3

- ① オープンキャンパスを 1 回増やし、年 6 回実施し入試志願者も前年度より 63 名増えた。学校説明会も教職員が一丸となり、積極的に訪問し、学校 PR を行なった。入学者の傾向については、データ分析等が必要となってくる。
- ② 大学志向の中、専門学校の内、在り方、定員数等については中長期的な検討課題である。また、優秀な学生の確保のために病院と連携し、キャリア形成やスキルアップを構築していく必要がある。具体的には、特待生制度（授業料免除）を設けることで受験生の訴求力が上がるのではないかと考える。

## (8) 財務 3.4

- ① 財務に関しては、法人本部で適切に管理されている。予算計画どおりに遂行しているが、今後は、財務担当部署と連携し、収支の状態を把握していく必要がある。
- ② 適切な管理がされていると考える。

## (9) 法令等の遵守 3.7

- ① 平成 26 年度から教育活動の内容全般の成果を年報でとりまとめ、関連施設、県内看護学校に送付して公開している。令和元年より学校関係者評価委員会を開催し、学校自己点検・自己評価内容の評価を行い、ホームページに公表している。
- ② 学校自己点検・自己評価内容の評価を行い、ホームページに公表しているので適切な対応ができてきている。

## (10) 社会貢献・地域貢献 3.0

- ① 地域交流については、施設、関連機関との交流はできているが、地域の方々との交流をどのように深めるのかは課題として残る。今後は地域への貢献の方法を検討する必要がある。また学生ボランティアについては、参加時の交通費を自治会から支給するようにした。各教員は、外部機関からの要請に応じて講師派遣に積極的に協力している。
- ② 「地域貢献」を地域住民との交流だけではなく、地域住民の学校への理解を深めてもらうような活動（学校周辺の清掃や公道の花植えなどの美化活動）と捉えても良いのではないか。隣接しているカルガモの家の防災訓練の参加も有意義である。

### <1回目関係者評価委員会での課題の改善についての意見交換>

1回目に比べ今回の評価点は、10項目中7項目が高くなっている。課題の改善については次のとおりである。

1. 退学率が高いのではないかと、とのことであったが今回、前年度より、退学率が6.0%で1.0%上昇しているため改善できなかった。この点についての意見交換が主に行われた。

原因としては、健康上の問題、学力不足による進路変更などが挙げられる。その中で、入学前の志望動機が明確でない学生は、講義、学内演習、臨地実習と次々に課せられる課題についていく意欲が低下しやすい、また、看護師になるという強い意志をもって入学しても高校までの基礎学力が不足しており学習についていけない状況になりやすいと考えられる。そして、そのような学生が休学を経て退学することが多い。学校としては、学習が継続できるように面接を繰り返し行い支援している。また、入学試験の当校の特徴として、一般入学試験の上位の学生が大学合格や、経済的に経費のかからない公立の看護学校を併願して辞退することが多い現状がある。

関係者評価委員会での退学率を減らすための具体的な対策としては、「入学時に優秀な学生を合格させること」が必要である。具体的には、①入学時に特待生制度を設け、3年間、高順位を保持することを条件で授業料を無償にすること②病院に隣接しており、卒業後のキャリアアップがしやすい等の利点を強調した情報を提供すること③入学試験での面接ではドクターヘリや救急救命、母子周産期センターでの勤務を希望している受験生も多いので、大学病院の魅力を伝えていくほうが良いなどが挙げられた。

また、学習の継続については、厳しいだけでは何事も続かないので「看護の仕事を学ぶことは楽しいこと」を実感できるような学校風土を作っていくことも必要であるとの意見があった。

2. 学生との意見交換会については、開催は良いことであるとの評価を受けた。今回は、教員は意見を真摯に受け取り対応していくようにした。
3. 評価点については、客観的に評価し具体的に説明できているのか、とのことであった。特に実習評価は、学生が納得できるように評価の根拠を具体的に説明するようにした。
4. 財務については、前回、学校の経理は大学が行っており適切であるとの評価であったので、評価点は高くなった。